

# 対人援助学の里程標

## 3

サトウタツヤ

(立命館大学)



メアリー・カバー・ジョーンズ.

### 行動療法の母

今回はメアリー・カバー・ジョーンズ。メアリー・ポピンズみたいでリズムの良い名前です。メアリー・カバー・ジョーンズ (Mary Cover Jones ; 1896 - 1987) は、Cover 家に生まれ、Mary という名を受けました。大学卒業後の 1919 年、ニューヨークで行われていた週末講座でワトソンの講義を受けました。この講義はワトソンの有名なアルバート坊やの実験も含んでいました。

ワトソンと共にこの実験を行い後に妻となるロザリー・レイナーはメアリーと同じ大学を出た友人でした。メアリーはこのワトソンの講義に触発されてコロンビア大学で修士号を得ることになります(1920)。同年結婚し、以後、メア

リー・カバー・ジョーンズと名乗ることになりました。

(図・若き日のメアリー)



トルで時に歴史のことも書くことにしたいと思  
います。相変わらずのご愛顧を。

メアリーは1923年から、コロンビア大学ティ  
ーチャーズ・カレッジ（教育学部）の教育研究  
インスティテュートで研究助手となり、有名な  
ピーター坊やの研究（Jones, 1924）を行うこと  
になります。この時、既にアカデミックな世界か  
らは引退を余儀なくされていたワトソンが指導  
にあたりました。ワトソンはこの時期、コロン  
ビア大学においてある財団の基金を得て児童研  
究のコンサルタントとして所属していたのです  
（Rutherford, 2001）。

さて、ピーターは白ウサギ恐怖であった。メ  
アリーは様々な恐怖低減手続を用いていました  
が、結果として最も有効だったのは「直接的条  
件づけ」、つまり、白ウサギと共に食べ物を提  
示することにより恐怖症が低減したと報告しま  
した。ただしこの研究はそれほど注目されず、  
ウォルピの精力的な活動のもと行動療法が体系  
化されはじめた1960年代に注目を集めること  
になります。1970年代にメアリーのことを「行  
動療法の母」と呼びはじめたのもウォルピでし  
た。

さて、1927年、メアリーは夫の異動に伴う形  
で、Institute for Child Welfare at the University of  
Californiaの研究助手となり、Oakland Growth  
Study (OGS) colored the rest of career に従事し、  
生涯発達心理学の発展にも力をそそぎました。  
そして1987年にカリフォルニアで死去しまし  
た。



さて、三回ほど「対人援助学の里程標」とい  
うタイトルで歴史を書いてきましたが、今回で  
終了します。歴史は書いている量のわりに調べ  
る時間がかかりすぎるのでエッセイにします。

「対人援助学&心理学の縦横無尽」というタイ

文献

Jones, M.C. (1924). A laboratory study of fear:  
The case of Peter. *Pedagogical Seminary*, 31,  
308-315.

Rutherford, A. (2001). Introduction to "A  
Laboratory Study of Fear: The Case of Peter" Mary  
Cover Jones (1924).

<http://psychclassics.asu.edu/Jones/intro.htm>